

2024年12月28日（土）

老球の細道844号

会津バスケットボール協会納会秘話「1年を振り返って」

会津バスケットボール協会 室井 富仁

今年も「バスケットボール〈四つの命〉」で充実した1年を楽しく過ごすことができた。「四つの命」は下記の通りである。

- ① **運命**・・・中学生時代にバスケットボールと運命の出会いをする。
- ② **宿命**・・・学生時代は勉強とバスケの両立、教員になってからはバスケと仕事の両立、過程とバスケットとの両立の宿命に挑む。
- ③ **使命**・・・優勝、勝たせる、選手を成長させる、指導者の育成等の使命に燃える。
- ④ **本命**・・・人生の大切なことをすべてバスケで学び、残り少ない人生の元気をバスケに与えてもらっている。

会津バスケットボール協会納会でのあいさつはこの話からスタートした。参加した人たちに改めてバスケットボール文化の素晴らしさを伝えたかった。

今年の会津地区の強化、育成状況はすべてのカテゴリーで低迷状態だった。昨年度はミニ、中学のカテゴリーでベスト4、準優勝と素晴らしい結果を出してくれたが、今年度は現在のところ全てのカテゴリーで大会の最終日に残れない状態である。せめて納会などで各カテゴリーが一堂に会して、酒を酌み交わしながら喧々譁々の強化談義をしてもらいたかった。

地区協会強化育成が低迷する中で、会津地区でミニ、中学時代を過ごし、高校で他地区、他県で活躍してくれた男子高校生が今までになくたくさんいた。インターハイ、ウインターカップなどに出場した福島商業高の斎藤諒太君（謹教ミニ）、新潟開志国際高の高野拓泉君（川南ミニ、北会津中）、帝京長岡高校の鈴木君（塩川ミニ、塩川中）、そして佐賀国スポ県少年男子代表の日大東北高遠藤飛和君（坂下ミニ、坂下中、会津クラブ）、帝京安積高岩下翔君（川南ミニ、若松四中、会津クラブ）である。地元では国スポ少年女子代表の会津高佐藤都和さん（城北ミニ、若松一中）がいる。このような選手達を地産地消で育成したい。

Bリーグでも会津地区出身者が活躍する時代がきた。S級レフリーの芳賀聡氏（若松市役所）、福島ボンズAコーチ上杉翔氏、選手として活躍するB1大阪の高木拓海氏（若松四中）、B3東京の川島蓮氏（若松一中、若松商業高）などがある。誰かに起こることは自分にも起こる。これらの先駆者を目標にさらに多くの後継者が育つことを期待する。

最後に、今回の納会において、前会長である松井先生から会津地区協会の増々の発展のためにと、全会津選手権（百井杯）に新たな優勝カップ男女2台が寄贈されたと報告があった。その時ふと頭に浮かんだのが「日本の超有名焼酎3M」である。「村尾、魔王、森伊蔵」である。会津選手権のカップを私も寄贈すると「百井、松井、室井」と「3M」になる。しかし、年金で細々と荒野を生きる私にはそのような余裕がなく、皆様に潔くあやまった。

参加者の少ない納会であったが「NO（ノー！）会」でなく前向きな話を若い人たちから聞けて「YES！（イエス）会」となった。まさに爺にとっては年を忘れ（忘年）て楽しめた。